

科目名	英語学演習Ⅰ			担当教員	大石 晴美	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED4EEL407
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	中学校高等学校の学習指導要領に準じ、英語学、英語教育学の基礎的知識を生かして、英語科教育における教材研究や教授法研究に結びつけることが目標である。テーマは、英語学の知識を英語教育研究に応用することである。					
授業の概要	英語学（音韻論、認知意味論、語用論）の知識を利用した英語教育研究の仕方を理解し、実践し報告をする。研究の成果を生かし、英語の授業において、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの教材研究、教授法開発、指導案作成などに応用する。					

授業計画	
第1回	講義概要説明
第2回	研究とは何か
第3回	研究テーマの決め方と先行研究の探し方
第4回	研究課題とデータ
第5回	文献研究と調査研究
第6回	質的研究と量的研究
第7回	研究成果の公開方法
第8回	文献調査報告1 音韻論、認知意味論、語用論
第9回	文献調査報告2 バイリンガルと脳研究
第10回	ミニ実験計画と実施方法
第11回	プレゼンテーション1 プレゼンテーションの仕方
第12回	プレゼンテーション2 リスニング、スピーキングに関する研究報告
第13回	プレゼンテーション3 リーディング、ライティングに関する研究報告
第14回	プレゼンテーション4 異文化コミュニケーションに関する研究報告
第15回	研究のまとめ

事前学修	0.5時間	次の授業の文献を読む
事後学修	0.5時間	自らの研究につなげまとめる
フィードバックの方法	リアクションペーパーの内容についてコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	30%	3段階
上記以外の試験・平常点評価	50%	プレゼンテーション
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業への参加度
定期試験	0%	しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業内で指示する。	授業内で指示する。	授業内で指示する。	授業内で指示する。	授業内で指示する。
参考資料				

科目名	英語学演習Ⅱ			担当教員	大澤 聡子
単位	1単位	講義区分	講義	ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	・英語の代表的な構文について、基本的な分析を理解できる。 ・言語データから規則性や共通性を発見し、論理的に分析することができる。 ・規則（＝文法）の本質的な意味と機能を理解し、言語現象のメカニズムを自分の言葉で説明、発表できる。 ・英語学の知識を活かし、英文法指導に応用できる。				
授業の概要	英語学で扱われる代表的な言語現象と構文について先行研究を読み、その分析を説明できるようにする。特に高校までの学校文法では十分説明されていない言語現象や構文について文献を読み、理解したことを論理的に説明することが求められる。扱う内容は学生自身の興味のあるものを選び、決定した内容について教員が文献資料を用意し配布する。文献は質疑応答などで理解を深め、要約してレポート提出とする。学校文法ではルールとして覚えた英文法の本質的な意味と機能を理解し、英文法指導に役立つ知識を身につける。				

授業計画	
第1回	ガイダンス： 扱う言語現象や構文を決定する。
第2回	文献読解（1）（例）冠詞の意味（不定冠詞・定冠詞）
第3回	文献読解（2）（例）可算・不可算名詞
第4回	文献読解（3）（例）時制表現１：現在形、現在進行形
第5回	文献読解（4）（例）時制表現２：完了形、過去形
第6回	文献読解（5）（例）時制表現３：未来を表す表現
第7回	文献読解（6）（例）仮定法（なぜ過去形を使う？）
第8回	文献読解（7）（例）法助動詞と疑似法助動詞（willとbe going to）
第9回	文献読解（8）（例）There構文 の本当の意味と機能
第10回	文献読解（9）（例）使役表現（have, get, make, letの意味）
第11回	文献読解（10）（例）受動文（受動文のはたらきとは？）
第12回	文献読解（11）（例）情報構造（倒置文はなぜ生じる？）
第13回	文献読解（12）（例）前置詞のはたらき（at, on, inの使い分け）
第14回	文献読解（13）（例）句動詞
第15回	発表 各自が関心のある内容を口頭発表

事前学修		授業で扱う範囲を読み、理解できない部分を抜き出し、授業で質問できるよう準備する。専門用語は英語学や言語学の用語辞典で調べておくとよい。
事後学修		文献を読みなおし、整理してまとめる。証拠となる例文や事例を作る。
フィードバックの方法	毎回の授業で議論し、理解を確認しながら進めていく。レポートは必要に応じて添削する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	50%	文献内容を論理的かつ的確に要約する。
上記以外の試験・平常点評価	50%	授業で文献内容についての質疑応答に答える。内容を口頭発表する。

定期試験		0%		実施しない	
補足事項					
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布する		なし	なし	なし	なし
参考資料		久野暲・高見健一（著）『謎解きの英文法』くろしお出版 野村益寛（著）『英文法の考え方 英語学習者のための認知英文法講義』開拓社			